

日 時 令和4年10月4日(火)

児 童 12名

指導者 齋藤 美和

1 単元名 「きせつとなかよし あき」 内容 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び

2 単元の指導構想

(1) 単元について

本単元では、身近な自然の様子や季節の変化に気付き、それらの違いや特徴を見つけたり、自らの生活に取り入れたりすることをねらいとしている。

秋は、木の実や落ち葉など、子どもにとって魅力的な自然物が多く見られる。春や夏に季節を感じる活動をした経験を踏まえて、豊かな秋の自然を体感させたい。「秋探し」では、自然の中で自由に自然物を手に取り、秋の特徴や自然の面白さや不思議さを感じ取らせたい。子どもにとって、身近な自然との触れ合い、自然の中で思う存分楽しむことは、感覚を磨いたり感性を育てたりする上で重要な体験である。更に、単元の最後には、保育園児を「あきをたのしもう」に招待する時間を設定する。招待する人のことを考えながら友達同士で計画・準備・実行することで、協力して一つの活動を成し遂げる意欲と実践的な力を育てることができる単元である。

(2) 児童について

子どもは、これまで、校庭を散策したり牧場へ出かけたりして、季節の自然と触れ合う体験をしている。屋外での活動を好み、昆虫を探したり季節の草花を採取したりする活動に意欲的に取り組んできた。7月には、保育園児を「なつをたのしもう」へ招待し、シャボン玉や水飛ばしを一緒に楽しんだ。

秋の自然物を使った遊びでは、昨年度小学校の「あきいっぱいランド」へ招待されている。木の実や木の実を使った遊びや飾り作りを全員が体験している。物を作ることを好む子どもは多いが、何を、どのようにすれば良いかで悩み作業が進まない子どももいる。表現活動については、みんなの前で話すことを苦手と考える子どももおり、みんなの前で話す機会をつくり、話す練習をしている。

(3) 指導にあたって

研究仮説1に関わって

- ①活動の最後には、保育園の年長児を招いて、一緒に秋を楽しもうと提案することで、相手意識をもち、活動に必然性が生まれるようにする。
- ②活動の途中では、製作しているおもちゃの出来具合を確かめ、工夫したことや困っていること等を感想で出させることで、「もっとこうすればいい。」「こんな道具を使うといい。」とパワーアップのアドバイスをし合い、楽しいおもちゃにするためにどうすればいいか意欲的に考えることができるようにする。

研究仮説2に関わって

- ①子どもが考えたことや気付いたことをカードに書き、「工夫したこと」「困ったこと」「アドバイス」について整理することで、一人の気付きが他の子どもの気付きへ広まり深まるようにする。
- ②おもちゃ作りをしている子どもや完成させた子どもに、「自然物のどんな特徴を生かしたのか」「どんな工夫をしたのか」と問うことで、対象と自分、友達と自分とのかかわりをより意識できるようにする。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

秋の自然を見つけたり自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見つけたり、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに季節の変化を取り入れ、自分の生活を楽しくしたり、みんなと遊びを創り出そうとしたりすることができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア身近な自然の様子 の共通点や違い、 季節の移り変わりに 気付いている。</p> <p>イ遊びの楽しさや遊 びを工夫したり、 遊びを創り出した りする面白さに気 付いている。</p>	<p>ウ四季の変化や季節の特徴を 確かめながら、身近な自然 を楽しんでいる。</p> <p>エ自分の思いや願いに沿って、 おもちゃ作りや遊び方を工 夫している。</p> <p>オ遊びの約束やルールなどを 工夫しながら、遊んでいる。</p>	<p>カ身近な自然の様子や季節の特徴に応じ ながら、それらに関わろうとしている。</p> <p>キみんなで楽しく遊びたいという願いを もって、粘り強く遊びを作り出そうとし ている。</p> <p>ク自分たちの生活が、身近な自然や季節 の変化にかかわっていることや、みんな で遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊 かに楽しくしようとしている。</p>

(3) 指導と評価の計画

小単元	学習内容と学習活動 ◆研究仮説に関わる手立て	評価規準 (評価の観点・評価の方法)
あきさをさがそう①②	<p>○校庭で秋の動植物を観察し、季節の変化に気付く。</p> <p>○春や夏に虫を見つけた場所で虫や虫のすみかを探す。</p> <p>○みんなでしてみたい秋の活動を話し合う。</p> <p>◆見つけた秋の動植物やしてみたい活動をカードに書き出すことで、一人の気付きが他の子どもの気付きへ広まり深まるようにする。</p> <p style="text-align: center;">仮説2①に関わる手立て</p>	<p>ア夏から秋へ自然の様子が変化していることに気付いている。 (発言・カード)</p> <p>ウ動植物などを春や夏と比較しながら、観察している。(行動・カード)</p> <p>カみんなでしてみたい秋の活動について話し合おうとしている。 (行動・発言)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">あきをたのしもう②(2)</p>	<p>○学校周辺の野山を散策し、自然を観察したり木の実を収集したりする。</p> <p>◆見つけた秋や収集した木の実等を紹介し合うことで、一人の気づきが他の子どもの気づきへ広まり深まるようにする。 仮説2①に関わる手立て</p>	<p>ア秋の野山の様子が変わっていることに気付いている。(発言・カード)</p> <p>カ秋の草花や樹木、虫などに興味をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。 (行動・発言)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">あきをたのしもう①(5)</p>	<p>○収集した自然物を使って、どのようなおもちゃができるか考える。</p> <p>○秋の自然物でおもちゃを作り、作ったおもちゃで遊ぶ中で、更によいおもちゃにするためにはどうしたらよいか考えたり作り直したりして、楽しむ。 (本時3/5)</p> <p>○作ったおもちゃで友達と遊びながら、もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむ。</p> <p>◆おもちゃ作りをしている子どもや完成させた子どもに、「自然物のどんな特徴を生かしたのか」「どんな工夫をしたのか」と問うことで、対象と自分、友達と自分との関わりをより意識させることができるようにする。 仮説2②に関わる手立て</p> <p>◆保育園の年長児を招いて、一緒に秋を楽しもうと提案することで、相手意識をもち、活動に必然性が生まれるようにする。 仮説1①に関わる手立て</p>	<p>エ自分の思いや願いに沿って、秋の自然物の特徴を生かしながら、おもちゃ作りや遊び方を工夫している。 (行動・作品・カード)</p> <p>イ遊びの楽しさ、遊びを工夫したり、遊ぶ道具を作り出したりする面白さに気付いている。(発言・カード)</p> <p>キみんなで楽しく遊びたいという願いをもって、粘り強く遊びを創り出そうとしている。(行動・発言)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">あきをたのしもう②(4)</p>	<p>○作ったおもちゃを保育園児に紹介し、一緒に遊びを楽しむ。(ようこそ!くずまき小学校へ②)</p> <p>○遊んで楽しかったことや、発見したことなどを発表したりカードに書いたりする。</p> <p>◆「あきをたのしもう」の前に「どのおもちゃや遊びをするのか」「どんな工夫をするのか」等を問うことで、園児と自分、友達と自分との関わりをより意識させることができるようにする。 仮説2②に関わる手立て</p>	<p>オ園児のことを考え、おもちゃや遊びのルールを工夫している。 (作品・行動・カード)</p> <p>イ「あきをたのしもう」を振り返り、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。(発言・カード)</p> <p>キ自分から園児に声をかけたり遊び方を教えたりして、保育園の園児と関わろうとしている。(表現・行動)</p>

なにをかんじたかな (1)	○秋の遊びを通して、感じたことや発見したこと、できるようになったこと、友達と遊んでよかったことについて振り返る。	☑自分たちの生活が、身近な自然や季節の変化に関わっていることや、みんなで遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かに楽しくしようとしている。 (発言・カード)
------------------	--	---

4 本時の指導計画

(1) 目標

自分の思いや願いに沿って、おもちゃを改良したり遊び方を工夫したりしながら、より楽しく遊べるおもちゃになるように作ることができる。

思考力・判断力・表現力等

(2) 評価規準

自分の思いや願いに沿って、おもちゃを改良したり遊び方を工夫したりしながら、より楽しく遊べるおもちゃになるように作っている。

思考・判断・表現

(3) 展開

段階	学習内容と学習活動	☐指導上の留意点 ◆研究に関わる手立て ◎評価	資料等
導入 5分	1. 前時までのおもちゃ作りを振り返る。 2. 本時の活動のめあてをもつ。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おもちゃをパワーアップさせよう。</div>	<input type="checkbox"/> 前時につくったおもちゃを手元に置き、実際のおもちゃを見ながら振り返っていくようにする。 <input type="checkbox"/> 自分のおもちゃだけでなく、友達のおもちゃもパワーアップできるように、みんなで協力しておもちゃを作ろうと話す。	前時の写真 振り返りカード イメージマップ

<p>展開 30 分</p>	<p>3. 作ってみた感想を発表する。(グループ)</p> <p>4. 友達のおもちゃをパワーアップさせる方法を考える。(グループ)</p> <p>5. 自分のおもちゃをパワーアップさせる。 ○友達の意見を聞くことで、新たな気付きが生まれる良さ</p>	<p>□前時の振り返りをもとに、自分のおもちゃ作りの感想を発表する。</p> <p>◆工夫したことや困っていること等を感想で出させることで、自分のおもちゃもパワーアップさせたい、困っている友達を助けたいと、おもちゃ作りへの意欲につなげる。 仮説1②に関わる手立て</p> <p>□「もっとこうすればいい」「こんな道具を使うといい」とパワーアップのアドバイスをし合い、より楽しいおもちゃにするためにどうすればいいか考える。</p> <p>◆子どもが考えたことや気付いたことをカードに書き、整理することで一人の気付きが他の子どもの気付きへ広まり深まるようにする。</p> <p>仮説2①に関わる手立て</p> <p>□アドバイスを受け、本時はどんな工夫をするか決め、おもちゃ作りをする。</p> <p>◎自分の思いや願いに沿って、おもちゃを改良したり遊び方を工夫したりしながら、より楽しく遊べるおもちゃになるように作っている。 (行動・作品・カード)</p>	<p>パワーアップ カード</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>6. 本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。</p>	<p>□どんな工夫をしたら、おもちゃがよりよくなったのかを振り返らせる。</p> <p>□問い返し、工夫の理由を聞く。</p>	<p>振り返りカード</p>